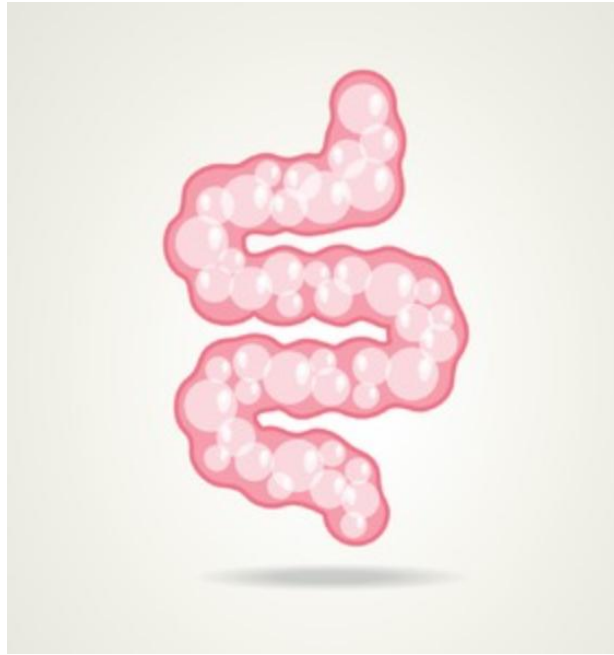


大腸内視鏡で診断困難なリンパ球性大腸炎に対する治療法

このたび、大腸内視鏡検査で診断困難なリンパ球性大腸炎に対して、ブデソニドの投与により79%が臨床的に寛解し、68%が組織学的に治癒したと *Gastroenterology* 誌に発表されました。



リンパ球性大腸炎は、長期にわたり水様下痢の再燃と寛解を繰り返して生活の質を低下させる疾患です。



----- 補 足 -----

顕微鏡的大腸炎は、大腸の組織標本を顕微鏡で観察して初めて診断される疾患で、

- 膠原線維性大腸炎（上皮直下に $10\mu\text{m}$ 以上の膠原線維帯を認める）
- リンパ球浸潤大腸炎（lymphocytic colitis；膠原線維帯を認めない）

の2つに分類されます。

原因は不明で、プロトンポンプ阻害薬や NSAIDs の投与が関与していることがあるとされています。

現時点で確立された治療法はなく、脂肪食制限やカフェイン中止など食事のコントロール、プロトンポンプ阻害薬や消炎鎮痛剤の休薬、アミノサリチル酸製剤や経口ステロイドを投与などが行われています。